

筑紫路

発行
自衛隊福岡病院
春日市小倉東1丁目61番地
TEL 092-581-0431



当院は自衛官だけではなく、一般の皆様もご利用いただけます。



新病院イメージ

今年九州北部において平年より約三週間早く梅雨が明け、すぐに夏を迎え猛暑日も多くなっています。近年のこの傾向に危機感をもった各部隊は本格的な訓練に入る前に暑熱順化の期間を設け、その効果か、原稿執筆時点では重篤な熱中症患者が当院に搬送されてくることは少ない状況です。気候が変わろうとも私たちの任務が減ることはありません。いかなる状況でも十分な機能を発揮できるように対策を取ることが必要です。

この酷暑の中でも、新病院の工事は着実に進捗しています。実際に工事が始まってみると予想外の事象も生起し、近隣住民の皆様からいろいろのご意見をいただいています。それらに真摯に対応しながら、新病院ができて良かったと思っただけけるよう職員一同努力してまいります。

松尾芭蕉が示した俳諧の理念として「不易流行」があります。いつまでも変わらない本質の中に新しいものを取り入れることが重要であり、それがまた本質となるという意味と捉えて



自衛隊福岡病院長
兼春日駐屯地司令
陸将補 菊池 勇一

います。この言葉は約一年前の筑紫路でも前病院長が紹介していましたが、繰り返し述べるのはそれだけ今の私たちに重要な概念と思うからです。陸上自衛隊のDNAの継承という観点で不易の部分が重視されることもあれば、安全保障環境の変化に对应した対応の必要性から流行の部分に重きが置かれることもありえます。要はそのバランスが重要であり、変わらぬ地位・役割、新たに付加される任務等を常に考えながら活動しなければならぬと感じています。当院においては、通常の診療のみならず事態対処時を想定した衛生訓練も定期的の実施しています。自衛隊全体で「衛生機能の変革」に取り組んでいる中で、数年前に設定した目的や要領はあつという間に時代遅れになります。周囲の状況を確認しながら訓練内容も見直し、時に訓練の目的までも再度考える思考過程が必要かもしれません。

夏の定期異動では二十名弱の転出入とともに病院内での職務変更もありました。慣れた人がその職を離れるわけですから、一時的な戦力ダウンは必至です。しかし、組織に新たに風が吹き込む貴重な機会でもあり、他の部隊等から転入した人が感じる違和感は重要です。新しいものを取り入れながら、脈々と受け継がれてきた当院の伝統をより良いものにしていきたいと思えます。

令和七年八月一日付で第七代自衛隊福岡病院兼春日駐屯地最上級曹長を拝命しました生野准尉です。

西部方面隊の基幹病院である自衛隊福岡病院の准曹の長として勤務できる事を大変光栄に感じるとともにその重責に身の引き締まる思いです。

我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、令和四年十二月に安全保障関連三文書が策定され防衛力の中核である自衛隊員の能力を発揮するための基盤の強化の一つとして「衛生機能の変革」が謳われておりその中に統合衛生運用への推進、戦傷医療対処能力向上の抜本的改革の推進等において我が自衛隊福岡病院も対応していかねればならない中で最上級曹長として何をすべきかと考え、「自ら考え行動出来る」隊員を育成する環境を醸成し隊員一人ひとりがリーダーシップ・フォローシップを発揮し病院長統率方針である「任務遂行」に向けて能力を最大限発揮出来る様病院を支えていく所存であります。そのためには、所属隊員だけでなく様々な方の協力が必要であります。皆様にはご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



最上級曹長
准陸尉 生野 忠文

令和七年八月一日付で、自衛隊熊本病院から、第一内科部長兼ねて麻酔科部長兼ねて先任診療科部長に上番しました濱地です。よろしくお願ひします。二年ぶりの自衛隊福岡病院勤務となります。この間に診療科のメンバーは約三分の二以上が変わっており、久々の福岡ではあります。新天地での気分も感じますが、新年度という年でも感じる勤務となっています。本年は開院七十周年という年でもあり、長い歴史の中、病院自体もますます発展し、ようやくグラウンドでの新病院工事が進み、その完成を待ちわびております。ハード面だけでなく、ソフト面でも電子カルテの導入による、医療の効率化と安全性の向上など、たった二年のブランクではありますが、急速な変革がみられる自衛隊の中でも、さらなる近年の福岡病院の目まぐるしい発展の速さに遅れないよう、自分自身のアップデートに邁進しています。患者様皆さまの健康の維持と自衛隊組織としての貢献に向け、診療科の発展に微力ながら精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。



先任診療科部長
1等陸佐 濱地 理通

新着部長挨拶



診療技術部長
1等陸佐 松本 佑介

令和七年八月一日付をもって診療技術部長を拝命した松本一佐です。自衛隊福岡病院における診療技術部は、臨床検査（検体検査・生理検査）、輸血、放射線検査、リハビリテーションを主軸とした診療を支援する機能を司る部署であり、診療を第一とする施設の一部長としての重責を自覚しています。診療技術部の業務の本質は、医師より受けた各種オーダーに対し上質な結果を提供することにあると考えます。私自身、外科医として培ってきた考え方はありますが、「上手な手術」は相応の経験を経た後にしか成しえず、そしてその「上手さ」は達すれどもまた届かずといったさらなる上昇志向を掻き立てる「もどかしきもの」であり、それを追求していく過程こそがこの上なく楽しいものです。このような思考から、部員である技師の皆には向上心をもって特技の経験を積み重ね、極まることのない上質なプロダクトを生み出していくよう指導していく所存です。

まだまだ若輩者ではございますが、精進してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

院内周術期訓練

令和七年六月十二日、十九日及び二十六日の三日間にわたり令和七年度院内周術期訓練を実施しました。

本訓練は当院所属の准看護師資格を有する衛生救護陸曹に対して、防衛省・自衛隊が強化を図っているダメージコントロール手術（DCS）に必要な知識や技術を習得することを目的としており、具体的には手術室内での無菌操作（滅菌物の取り扱い、ガウンテクニク及び手洗いや消毒）、衛生器材及び医療機器の取り扱い並びに器械出しデモンストラクション、外回り看護及び器械出し看護等の手技及び要領等について演練しました。



DCSに関する基礎教育

模擬実習



器材説明



病院長による現場指導

患者空輸訓練

令和七年六月十三日、十七日の二日間で令和七年度患者空輸訓練を実施しました。

本訓練は、患者空輸時の対処能力向上を目的として航空機への患者搭載及び卸下並びに機内における添乗救護要領について演練しました。

一日目は、事前訓練として、春日駐屯地において航空機内を想定した患者の観察及び二人一組による添乗救護要領を練成し、目達原駐屯地において西部方面ヘリコプター隊の支援を受け、実際のフライト状況下における機内救護要領等について演練しました。

ヘリコプターの機内は狭隘かつ騒音、振動を伴い、意思疎通が困難な環境であるため、コミュニケーション時に手信号や筆談を用いたり、観察方法を工夫する等、病院内で実施する通常の患者観察とは異なる配慮が必要でした。

本訓練を通して、訓練参加者それぞれが患者空輸に関連する知識・技術を獲得し、救命活動の能力向上を図る事ができました。

各種事態において当院の職員が患者の航空後送能力を有するということは前線で活動する隊員の心のよりどころとなるものであり、自衛隊衛生にとっても今後更に重要視されていく分野であるため、衛生科隊員の航空後送に係る識能の向上を目指し、今後も西部方面隊の衛生機

能の強化に尽力してまいります。



准看護山地行進訓練

准看護学院（学院長 田村二佐）は、令和七年六月十三日、背振山系において、第五十期学生三十五名の第一回山地行進訓練を実施しました。

駐屯地内における計五回の練習により、体力・気力を充実させた学生は意気揚々と本訓練に臨みました。

行進間、急勾配・馬の背地帯の行進及び担架搬送等の困難を克服して山頂を目指し山地行進を続けました。この際、背振山山頂において病院長視察及び激励を受け、学生一丸となり、全員で背振山系を踏破し学生の更なる団結の強化及び山地行進訓練の向上が図れました。



准看護水難救助訓練

准看護学院は、令和七年七月十七日、十八日の間、糸島市深江海岸において第五十期学生三十五名の水難救助訓練を実施しました。

本訓練に向け、前川原駐屯地プールにおいて三回におよぶ練習訓練を行い学生の泳力及び救助技能の向上を図りました。

訓練当日、灼熱の太陽の下、学生は、練成の成果を遺憾なく発揮し、各種泳法及び消防夫搬送・各種器材を駆使して救助に必要な練度を向上させました。

十八日には、最先任上級曹長の現地視察及び激励により、学生の士気高揚を図るとともに十七日には懇親会を行い、学生間の団結及び基幹要員との信頼関係の強化が図れました。



ふれあい看護体験

令和七年七月十日に令和七年度ふれあい看護体験の受け入れを実施しました。

本事業は、高校生が実際の看護の場の体験を通して、看護することや人の命について理解と関心を深める機会とすることを目的に、福岡県看護協会より委託され実施しているもので今年度は、県内より五名の高校生が参加しました。看護体験では、手術室看護としてガウンの着脱と手術器械の器械出しを体験し、病棟看護としてバイタルサイン測定及び車いすの移乗・移送を体験しました。また、職員との意見交換では自衛隊病院及び防衛医科大学校の紹介を実施しました。

参加者からは「看護師になりたいと思った。」「進路の視野が広がった。」等の意見があり、看護の魅力を伝えるとともに自衛隊の広報に寄与する良い機会となりました。



手術器械の器械出し体験



車いすの移乗・移送体験

人事往来

転出者

- 《八月一日付》
- 建替準備室 後藤 雅史 (三宿へ)
- 三陸隊 久木野 慎治 (小倉へ)
- 給食課 横山 かおり (目達原へ)
- 診療科 藤野 泰地 (三宿へ)
- 北澤 紗乃 (三宿へ)
- 一陸尉 篠崎 理莉子 (三宿へ)
- 診療技術部 大野 毅 (朝霞へ)
- 看護部 山下 清美 (南那覇へ)
- 一陸尉 生野 亜希子 (小倉へ)
- 佐藤 由佳 (福岡へ)
- 奥永 奈穂 (熊本へ)
- 二陸尉 小田 歩 (南那覇へ)
- 二陸尉 増浪 茜 (那覇へ)

転入者

- 《六月一日付》
- 診療科 木村 栄一 (三宿から)
- 二陸尉 二宮 裕来 (三宿から)
- 二陸尉 安江 映里 (三宿から)
- 《八月一日付》
- 総務課 佐々木 偉光 (福岡から)
- 陸曹長 前田 秀彰 (久留米から)
- 一陸尉 岩間 克己 (木更津から)
- 二陸尉 柴田 彩花 (伊丹から)
- 給食課 田口 聡勲 (奄美から)
- 陸曹長 松本 博義 (目達原から)
- 診療科 濱地 理通 (熊本から)
- 一陸尉 川端 絃輔 (三宿から)
- 一陸尉 山田 敏恵子 (三宿から)
- 石原 森生 (三宿から)
- 石原 有佳子 (三宿から)
- 上畑 直之 (三宿から)
- 看護部 下園 明子 (真駒内から)
- 三陸佐 通山 晶子 (福岡から)
- 二陸尉 酒井 菜摘 (福岡から)
- 二陸尉 青山 仁香 (三宿から)
- 二陸尉 小谷 聖奈 (北熊本から)
- 准看護学院 松本 由紀子 (小倉から)

ようこそ！ 福岡病院へ

新転地での活躍をお祈り申し上げます！

定年退官

五月二十八日付退官
診療科 一尉 山本 美喜子



五月三十日付退官
衛生資材部 一佐 山本 善行



六月二日付退官
看護部 三佐 影平 範子



長年の自衛隊勤務 お疲れさまでした。

七月八日付退官
看護部 三佐 井野 夕紀子



七月十七日付退官
総務部 三佐 田中 英夫



八月十六日付退官
総務部 曹長 小野 博史



春陽会懇親会(令和七年度)

令和七年六月二十九日、福岡病院OB(春陽会)が主催する春陽会懇親会に参加しました。この懇親会は毎年開催されており春陽会会員と福岡病院職員との相互の団結及び親睦を深めることを目的とし、約八十名が参加しました。

懇親会では旧知との久しぶりの再会により昔話で盛り上がりたり、諸先輩たちのご苦労話、色々な実績を残された話などを聞くことができ楽しいひとときを過ごすことができました。今後とも春陽会と連携・親睦を深め、福岡病院の更なる発展につなげていきたいと思っております。



建替工事に関するお知らせ #7

令和七年三月に建築工事施工者が主催する安全祈願に参加し、四月から本格的な工事を開始しました。今年度より近隣自治会等への建替工事定期説明会を実施しています。第一回を五月に第二回を八月に実施しました。近隣の皆様には、騒音、工事車両の運行等でご迷惑をお掛けしておりますが、今後ともご理解、ご協力をお願い致します。



令和七年四月



令和七年七月